

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和4年(2022年)

8-9月号

(通巻 201号)

2022年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

アシハラガニ
干潟の廃船の陰にいました。体形や目の柄の長さ、ハサミの大きさなど、絵本に出てくるカニに近い形をしています。

P1 ☀️ いきもの写真館
アシハラガニ

P2 / 3 ☀️ おすすめ自然観察スポット
長田谷津と江戸川放水路
- 長田谷津のお皿地形 -

P4 ☀️ センサーカメラとっておきをご紹介
オオタカ

P5 ☀️ いちかわの植物 30年
コウキヤガラ
サンカクイ

P6 ☀️ くすのきのあるバス通りから
セミが気になります

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
アカガエルの餌やり

P7 ☀️ わたしの観察ノート
5~6月の記録

P8 ☀️ ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。

おすすめ自然観察スポット

長田谷津と江戸川放水路

－長田谷津のお皿地形－

現在の長田谷津（大町公園自然観察園）は、草木が生い茂り、地形や水の様子が変わりにくくなっています。ただ、同じ「みどりの風景」でも地形や水の様子が変わると、自然の中身は大きく変化します。長田谷津では、お皿地形が失われつつあります。

長田谷津の基本の地形と水の動き

谷津の地形の一部を切り取った形で模式的に示しました。奥が上流の設定です。

長田谷津地形模式図

梨園は土の地面なので雨水が浸み込みます。数十年分の雨水が地中に蓄えられています。

台地(梨園)

斜面に林があることで、木と水が近距離にある、谷津特有の環境を生み出しています。

斜面(林)

谷底が「平らなお皿」のような地形になっていれば、湧水を一時的に貯留し、そこに田んぼのような生態系が生まれます。

谷底(湿地)

地下水面の位置

湧水の水路

中央水路

湧水は斜面裾からしみ出し、斜面に沿って流れます。

お皿地形

すべての水は中央水路に流入し下流へ向かいます

長田谷津のお皿地形

前号で紹介したように、長田谷津の谷底には水田に由来する「お皿地形」があります。お皿には、斜面裾から染み出す湧水を流し込んでためて、その後、ゆっくりと谷中央の水路に排水します。水がたまってお皿には、さまざまな動植物が生育・生息します。

左ページの図は、長田谷津の基本の地形を改めて模式的に整理したものです。地形を構成する要素は大きく3つあります。「台地」「斜面」「谷底」です。このうち「台地」は、梨園などに利用されています。農地として一定の環境が保たれ、地形も大きく変わることはありません。

「斜面」は、林になっています。斜面林と呼んでいます。遷移が進んだため植生や景観は大きく変わりましたが、地形的にはそれほど大きな変化は起きていません。ただ、部分的にボコッと丸く崩れ落ちている場所があり、その土砂は谷底にたまっています。そのことは、谷底の環境に大きな変化をもたらしています。

「谷底」は、湿地です。かつて水田として利用されていたため平坦で、浅い水面が広がる「お皿地形」になっています。

致命的なことが起きている

公園開設からまだ40年ほどなので、見た目にも明らかな地形の変化は起きていません。一方、植生は遷移が進み、斜面林も湿地も、生育する植物の種類が変わり、見た目も大きく変化しました。そのため、公園管理の上では、変化した植生をどう扱うかに関心が向いてきました。斜面林なら常緑樹林化をどうコントロールするか、湿地ならヨシやマコモなどの大型草本をどうコントロールするか、です。ですが、そのこ

との陰で、いま、致命的ともいえることが起こっています。谷底が埋まり、地面が高くなっているのです。

たまった水と湿った土は異なる環境

わずかな土砂がすこしずつ堆積したため、気づくのが遅れました。長田谷津の谷底のかなりの面積で従来のお皿地形が埋まっています。見た目にはわかりにくいのですが、水のように着目すると違いは歴然です。それまで水面が広がっていた場所（田んぼのような場所）が、単なる湿った土の、花壇の土のような場所へ変わってしまったのです。見た目には小さな変化ですが、暮らせる生き物は違います。たとえばメダカ（長田谷津にはいませんが）は浅くても水があれば暮らせますが、湿った土にミミズのように潜って生きることができない、ということです。

植生の管理と地形の管理

植生の管理と地形の管理は、意味合いが大きく異なります。植生は、草を刈ったり刈らなかつたりすることで、小型草本の群落と大型草本の群落の間を行ったり来たりすることができます。ヨシ原を刈り払ってカサスゲ群落に戻したり、さらに刈ってセリ群落に戻したりできます。セリ群落を放置すれば、カサスゲ群落を経て再びヨシ原になります。

埋まった地形と水がたまった地形は、そういう時系列に並ぶ関係ではありません。本来的には埋まった谷底が原形で、大雨などで一時的に浅い水面ができたと思われまます。その関係を、稲作が逆転させました。その意味では長田谷津の谷底は本来の姿に戻りつつあるのですが、ここを公園にしたのは田んぼ的な環境を残すためです。なので、いまは危機的な状況なのです。



センサーカメラ とっておきをご紹介

自然博物館では、長田谷津(大町公園自然観察園)の斜面林内にセンサーカメラ(自動撮影装置)を2か所、設置しています。1か所は人工的に作った水場、もう1か所は「けもの道」です。記録は動画ですが、ここでは静止画像を切り取って紹介していきます。



オオタカ

オオタカは、水場でよく写ります。ただ、年によって来る個体は違っているようです。体色や、その他の体の特徴から、ある程度は判断できます。写真のように2羽が同時に写ったことは、ほとんどありません。この2羽は、前後の行動から番(つがい)と思われます。左がメス、右がオスです。オオタカは数が増えました。大町公園からそう遠くない場所でも営巣しているのかもしれませんが。

いちかわの植物 30 年

自然博物館の 30 年あまりの活動で得られた写真を用いて
市川市域の植物を紹介します。

コウキヤガラ

この35年間で、湿地と草原は無くなりました。草原はすでに35年前でもわずかでしたが、田んぼ由来の湿地は、当時はまだかなり残っていました。国分川や大柏川の流域が市街化調整区域として開発されずにいたからです。ですが、家は建たなくても土は盛られました。そしてそこに、セイタカアワダチソウが群生しました。

湿地には、さまざまなカヤツリグサ科の野草が生えます。コウキヤガラもそのひとつです。海に近い場所に多い種類ですが、写真は市川大野駅近くの谷津にあった群落です。



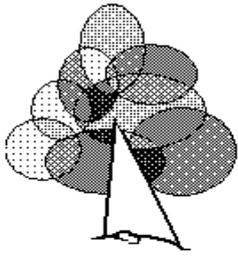
コウキヤガラ(1986年5月23日)
大野町2丁目 群生地は、霏雨気のある湿地だった。

サンカクイ

カヤツリグサ科の野草には茎が三角形のものが多く、自然観察の定番ネタになっています。サンカクイは、その特徴のままの名前を持ち、実際、葉が退化しているので三角形の細長い茎だけの外観です。写真は、現在「大柏川第一調節池緑地」になっているところですが、調節池の造成が始まる前は田んぼで、35年前はまだ稲作が行われていました。やがて休耕される場所が増え、ヨシやガマなどの大型植物群落に遷移し、最後に調節池が作られました。田んぼにも一時貯留の機能はありますが、調節池のほうが桁違いに多くの水を貯留できます。田んぼや湿地が減って住宅が増えた分、限られた面積で多くの水をためなければいけないというわけです。



サンカクイ(1986年7月14日)
北方町4丁目 湿性の野草が多い場所だった。



セミが気になります

大柏川の河川敷で、浜道橋より上流では、大きく育った草が茂っています。オオブタクサだそうです。アレチウリで覆われていた年もありました。武蔵野線と大柏川が交差する辺りの公園で数年前クマゼミが鳴いていました。今年はそこより南の姫宮団地入口のバス停のサクラの木で数匹鳴いています。7月31日の朝9時頃、自宅付近で初めてツクツクボウシの鳴き声を聞きました。ニイニイゼミとミンミンゼミは鳴いていますが、アブラゼミの鳴き声はしません。羽化した姿は見ましたが、数日後死んでいました。20

年前、市民プールからの帰り道の桜並木で、娘がアブラゼミを手づかみで30匹ぐらい捕まえ、Tシャツに「セミバッチ〜」とくっつけ、家にまでついてきたセミを、庭の桜につけて逃がしていました。博物館の方に「アブラゼミ少くないですか？」と聞くと、「6年前の夏がどうだったか…」と。住宅地では売地や建て替えでも更地にしてしまい、幼虫の居場所がなくなっているのかも。気になってネットを見ると「土の湿り気や気温も関係している…」とか。大野のナシ園付近ではアブラゼミが鳴きだしました。

(M. M.)

No.44

展示室 飼育生物の話題

アカガエルの餌やり

以前の号で、アカガエルを冬眠させずに展示するために人工の餌に慣らすことを紹介しました。そのことの延長として、指から餌を取るようになります。

右の写真で、ケースのふちにとまっているのはたまたまですが、カエルたちは餌の時間であることがわかるようで、みんな給餌者の方を向いてスタンバイします。そのうちの1匹が、跳ねてケースのふちにとまりました。



給餌者とカエルの呼吸が合えば、パクッとひと口で食べてくれます。あくまでも野生生物を観察しやすいように、という趣旨の飼育なのでカエルやその他の生き物をペット化することはなく個別に名前もつけませんが、それでも指から食べてくれると「わたしのカエル♡」です。達成感はかなりなものですね。

◆長田谷津より

- ・土砂降りの観察園に行きました(5/27)。地面が濡れていたためサワガニが園路に出てきていました。
- ・今年産まれた幼鳥がたくさん入っている混群に出会いました(6/22)。エナガ、シジュウカラ、ヤマガラの子鳥がいました。その他メジロとコゲラも一緒にいました。

◆大町より

- ・動物園のミニ鉄広場のウメに黒地に黄色が入る、シャクトリムシ型の幼虫がついていました(5/10)。博物館に持ち帰り調べるとウメエダシャクというシャクガの仲間の幼虫でした。名前の通りウメを食草とするようです。

以上 稲村優一(自然博物館)

- ・12時、動物園駐車場で、ニイニイゼミが遠くで鳴いていました(6/29)。

◆八幡より

- ・「トッキョキョカキョク・トッキョキョカキョク」と2声聞こえました(6/9)。ホトトギスが飛びながら通過したのかも…。

以上 M.M.さん

◆小塚山より

- ・キンランが数多くあちこちに咲いていました(5/4)。
- ・ギンランが数株咲いていました(5/4)。

以上 谷口浩之さん(北国分在住)

◆堀之内より

- ・どうめき谷津公園の人工の川の岸辺に、水辺の植物がいろいろはえていました(5/10)。ミコシガヤ、アゼナルコのなかま、ウキヤガラ、イグサ、コウガイゼキショウ、タガラシ、カワヂシャなどが見られました。

宮橋美弥子(自然博物館)

◆大洲より

- ・江戸川の堤防には、いろいろな花が咲いていました。ハルジオン、ヘラオオバコ、アカバナユウゲショウ、カタバミ、コメツブツメクサ、シロツメクサなどです(5/6)。アカツメクサも咲いていて、そばにはヤセウツボもたくさん咲いていました。

◆江戸川放水路より

- ・干潟がにぎやかな時期になりました。ヤマトオサガニやチゴガニ、コメツキガニが干潟を歩き、潮だまりではタテジマイソギンチャクが触手を広げていました(5/20)。
- ・久しぶりに小学生と江戸川放水路の干潟で自然観察をしました(6/2)。ヤマトオサガニやケフサイソガニ類など、子どもたちはいろいろな生き物を捕まえて見せてくれました。小さなテッポウエビが取れていて驚きました。
- ・江戸川放水路の上をチョウゲンボウが飛び、ホバリングしていました(6/12)。枯れ草を運んでいるような場面もありましたが、バッタを捕えたときに草も一緒にくわえてしまったのかもしれない。

以上 金子謙一(自然博物館)

- ・江戸川放水路にかかる水道橋の上にコアジサシが20羽ほど集まっていた(6/29)。近くに繁殖地があるのかもしれない。

稲村優一

6月3日に地面が一時真っ白になるほどの雹が降り、梨や市内中心部では建物、車などに甚大な被害がでました。梅雨は速報値でほぼ例年通り6月6日に入り、例年より22日早い6月27日に明けました。

動画ファイルを、学校へお送りします



自然博物館では、教育普及用のオリジナル動画の制作を進めています。自然博物館のwebサイトからYouTubeでご覧いただくこともできますが、授業や教材研究などで用いるには画質に難があります。古いものは低画質ですが、ハイビジョン画質の動画ファイル（MP4）もあります。それらを学校に直接提供することが可能です。動画は、博物館と学校、双方のセキュリティの点から、DVDディスクでのご提供となります。

○ 展示、教育普及用動画

博物館の展示室や学校での出張授業の際に使う想定で作ったものです。たとえば、つぎのようなタイトルがあります（ほかにもありますのでお問い合わせください）。

- ・「アブラコウモリ」（低画質）
- ・「オニヤンマの産卵」（低画質）
- ・「カロリナハコガメのぼる」（ハイビジョン画質）
- ・「トビハゼのお食事」（低画質）
- ・「ノコギリガザミのお食事」（低画質）
- ・「ホオジロの巣立ちに遭遇」（低画質）
- ・「ヤドカリのひっこし」（ハイビジョン画質）
- ・「江戸川のヒヌマイトトンボ」（ハイビジョン画質）
- ・「江戸川放水路のカニ」（ハイビジョン画質）
- ・「江戸川放水路のトビハゼ」（ハイビジョン画質）

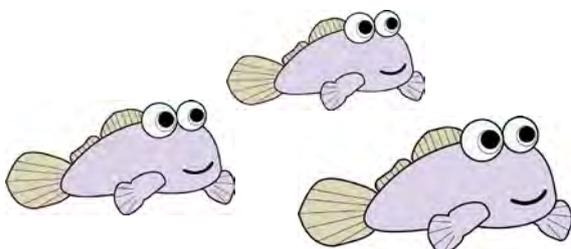
○ 長田谷津（大町公園内）動画スケッチ

動植物園に隣接する大町公園「自然観察園」の毎月の記録です。景観、動植物、湧き水など、四季折々の様子を記録しています。画質はすべてハイビジョンで、調べ学習で繰り返し再生したりノートに書き写すことを想定して、解説は字幕です。

2020年9月分からあります。

○ センサーカメラの記録

自然観察園に設置しているセンサーカメラが撮影した哺乳類と鳥類の動画を編集したものです。画質はすべてハイビジョンで、解説は文字画面です。ひと月ないし数か月単位でまとめてあります。ノウサギやタヌキ、フクロウ、オオタカなど、自分たちでは観察できない生き物の様子が写っています。また、タヌキ、ハクビシン、ノウサギ、アカネズミ、オオタカ、カケス、フクロウについては、それぞれ短くまとめたものもあります（字幕解説なし）。



第35巻 第3号（通巻第201号）

令和4年8月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477